

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人 瑞穂会		
事業所名	グループホームかみさの家 ぽかぽかユニット		
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町字大官43番地		
自己評価作成日	令和5年8月22日	評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNo=2372101390-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響で、行事や活動のほとんどが中止となっています。感染症拡大以前は、敷地内の畑や花壇を利用し、四季折々の野菜や花々を栽培し、利用者様と一緒に収穫を楽しめるようにしています。年2回は、近隣の保育園児を招待して、芋掘りと交流会を開催していました。また、散歩や外気浴など、利用者様が気兼ねなく室外へ行けるよう開放的な環境の維持に努めています。基本理念を忘れず、個々の生活スタイルやペースを尊重し、個々に合った支援ができるように努めています。運営推進委員会や家族会を通して、より良い施設づくりの為の意見やアドバイスを頂く場を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、玄関やユニット間をはじめ施設をせず、利用者がいつでもどこでも自由に活動できるよう、環境整備に努めている。今年度は、ユニット別で権利擁護や虐待・身体拘束などをテーマとした勉強会を開催し、認識を再確認した。チーム力を向上させて支援することで、利用者がホーム理念である「ゆつくりと楽しく普通に生活を」を維持できるように取り組んでいる。
運営推進会議には行政のほか、自治会や老人クラブなど地元住民が多く参加している。地域の福祉ボランティアの協力などもあり、地域に根差したホーム運営が成されている。
食事は、3食とも職員が手作りで調理して提供している。日頃の関りや1対1での会話から聞き出した希望・要望などを踏まえて献立を考え、季節感も出して利用者の食が進むよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎年目標を定め、施設の理念の実践を心がけ業務を行なっている。コロナの影響で、会議が開けない為、勉強会等で理念を共有していく必要がある。	職員の勤続年数が長く、理念は根付いており、年間目標を定めて理念に基づいた支援に努めている。利用者が「ゆっくりと楽しく普通の生活」を維持・継続できるよう、利用者に寄り添った支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響で、町内のふれあいサロン、保育園との交流が無く、地域との繋がりが持ていない。	地域の福祉ボランティアの活用や、保育園との交流が途絶えている。今後、人的交流の再開が予定されており、ホームの環境整備などに地域の力を借りて、地域に根差したホーム運営を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	対面での運営推進会議が行えるようになり、運営推進会議で、施設の現状や施設で行っている認知症の勉強会の内容を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度、施設で会議を行っている。対面で行えるようになり、地域の方からの助言を頂くことができ、そこで出た意見、助言を施設のサービス向上に繋げている。	運営推進会議は行政や地域住民、併設高齢者施設の施設長が参加し、奇数月に開催している。今年3月からは対面開催で、ホームの現状を報告し、各種の助言やアドバイスを得てホーム運営に反映させている。	運営推進会議に利用者家族の参加が得られていない。介護の目的を達成するためにも、家族の参加を得られるよう、検討・工夫することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連携は、必要最低限の情報共有しか出来ていない為、今後連携を図り、ケアサービス向上に取り組んでいきたい。	運営推進会議に地域包括支援センターの担当者や市の介護相談員が参加し、事務処理や困りごとなどにも、適宜相談・対応している。法人経由で補助金や助成金も活用し、サービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて、身体拘束についての勉強会を開催し、職員の知識の向上に努めている。施設の方針として、玄関の施錠は夜間以外はしていない。	マットセンサーやベッド柵等の使用に際しても、家族の同意・承諾を得ており、期間を設定した上で使用し、職員間で使用継続の可否などを話し合っている。身体拘束適正化委員会での話し合いや、職員研修を通して、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、虐待についての勉強会を開催し、職員の知識の向上に努めている。内出血や擦り傷について、何故できたかの原因を考え、再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、対象となる利用者様がない為、学ぶ機会を設けおらず、職員の理解度は低い。今後、職員会議等で、知識を得る機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際に契約に関する説明をし、十分に納得して頂けるよう努めている。また、ご家族様の面会時や電話連絡にてご家族様とお話し、不安や疑問点を少しでも解消できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の意見や要望は、その都度職員間で話し合いをし、共有している。また、意見や要望がないか、ご家族様の面会時や電話連絡にてご家族様とお話している。	面会時や電話・手紙での連絡時に、家族の意見や要望を確認している。コロナ下においても、玄関先や窓越しで面会できるよう対応するなど、利用者・家族の要望の実現に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナウイルスの影響で、職員会議の開催回数が減ってきている為、申し送り時や日々の業務時に、職員の要望を聞くように心掛けている。	管理者と職員との距離が近い。日常業務の中で意見や提案等が出され、実現に向けて取り組んでいる。夜間は、夜勤者の駐車場にも気を配り、夜勤者の安全確保をするなど、福利厚生にも力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の長期休暇と、6回のリフレッシュ休暇を利用して、心身の管理に努めている。また、有給休暇を8割消化を目標とし、勤務の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加が困難な状況にある為、内部研修を中心に、その時点でのケアの改善やスキル向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の認知症対応型共同生活介護事業者の代表者が集まる会議に年数回出席し、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の様々な言動について、日々のコミュニケーションを通じ、どのようなことを求められているか考えている。また、これまでの生活歴を知り、利用者様との関係づくりに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの意見や要望は、ご家族様の面会時や電話連絡をして聞き取りをし、良好な関係づくりに努めている。しかし、新型コロナウイルス感染症により、家族会が開催できていない為、家族との接点は少なくなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時に利用者様とご家族様の必要としている支援を見極め、施設サービス計画書に反映させている。計画書は、利用者様の状態に合わせて、その都度変更、追加をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりが楽しく穏やかに過ごして頂けるよう心掛け、職員と一緒にできる環境作りを行い、安心して生活して頂けるよう努めている。ご本人様が出来ることは、ご本人様にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時や電話連絡にて、不安や困りごとの解消に努めている。また、1ヶ月に1度手紙を送付し、利用者様の現状をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響で、ご家族様や知人の面会に制限があるが、継続されている。また、電話や手紙を通じ、これまでの関係が継続できるよう支援している。	家族面会のほか、電話や手紙などの通信支援により、人的な関係継続に努めている。生活習慣の継続を基本に、可能な限り趣味が継続できるよう支援している。回数は減っているが、今もピアノを弾く利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や関わり方を考慮し、席を替えたりソファで過ごして頂く等、より良い環境作りをしている。また、利用者様皆様が楽しんで頂けるような日中活動やレクリエーションに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後は、関係が途絶えてしまっている。どのように関係性を保つのか、考えていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様の何気ない表情や言動、つぶやきを感じ取れる様に、コミュニケーションを図る様に心がけている。	入居時のアセスメントを基に家族からの聞き取りを行い、日頃の利用者との会話や関わりの中から思いや意向を汲み取っている。意向を「介護日誌」に記録し、職員間で共通認識できるように共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の会話や、ご家族様からの情報、記録等の資料を参考に、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の申し送りと、介護記録の確認、日々の職員間のコミュニケーションから情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の意見を取り入れ、職員間でカンファレンスを実施してから、サービス計画書の作成に役立っている。	計画作成担当者も介護を兼務し、利用者の状態を日々確認している。短期では6ヶ月を目途にモニタリングを行い、利用者・家族の意向を確認し、職員意見も参考に、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果を介護記録に記載し、職員間での情報を共有しながら、サービス計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の認知症の進行や、身体機能の低下を予測し、個々に合わせた事例検討を行い、意識改善や知識、スキルの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年では、ボランティアの協力を得て、月1回程度外出をしているが、現在は新型コロナウイルスの影響により実施できていない。その為、施設内で行える行事、施設外の散歩をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の看護師を中心として、ご家族様と連携を取りながら、かかりつけ医と関わりを持っている。定期的な受診、年1回の特定健診を通して、適切な医療を提供している。受診は可能な限りご家族様に依頼している。	ホーム協力医や入居前の医療機関など、かかりつけ医は利用者・家族が自由に選択している。看護師も常勤しており、かかりつけ医と連携して利用者の健康管理を担い、適切な医療体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の暮らしの中で気付いた利用者様の変化は、施設の看護師や、併設の特養の看護師に伝え、適切な看護が受けられるよう支援している。必要であれば、ご家族様とも連携し、受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者と施設の看護師が病院関係者と連携し、情報共有をしている。医療機関との関係は薄い為、緊急時にスムーズに連携できるような関係づくりをしていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設入所時に、重度化した場合を想定した説明を行い、同意書に記入して頂いている。状態が悪くなった場合は、その都度説明、同意をして頂いている。	看取り対応をしない方針である。入居時に重度化・終末期の支援方針について説明し、同意を得ている。医療的行為や浴槽を跨げないなどの身体状況の変化により、早期に家族と話し合い、他施設への移行など、利用者の現状に合った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは作成されているが、応急手当や初期対応の訓練はできておらず、職員の知識、技術は不足している。今後、勉強会等で知識、技術を習得し、利用者様の急変時に備えておかなければならない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っているが、実践力があるとは言えない。自然災害が増えている昨今、準備しておかなければならない緊急課題である。	ホーム独自に日中・夜間想定での避難訓練(通報・初期消火、避難)を定期的に行っている。平屋建てのため、水害時は併設施設の2階への避難計画としている。3日分の非常飲食料を備蓄している。	被災時には地域協力が必要となる。運営推進会議を利用した話し合いや備蓄品の試食、AED講習などの機会に地域からの参加を求め、協力を得るための工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の話をしっかりと聞く姿勢を持ち、一人ひとりに合わせた声かけをすることにより、自尊心を傷つけないように心がけている。	年長者に対する声掛けや接し方については、ユニットごとに権利擁護やプライバシー確保、接遇などの勉強会を行っている。選択肢を用意して問いかけるなど、利用者の自立を妨げないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話題や声かけの仕方を工夫して、ご本人様の希望を表現できるように働きかけている。認知症でご自分の意思を伝えることが難しい方に対しては、「はい」「いいえ」で答えられるような質問をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムを大切に、起床や就寝時間、食事の時間など、ご本人様の希望に沿って援助するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には整容を実施し、入浴の際に着替えはご自身で選んで頂くように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決め、下ごしらえ、盛り付け、食器拭き等、その方が出来ることを選び、手伝って頂いている。	献立は利用者の希望を聞き、ホームにある食材から、職員が3食手作りで食事を提供している。誕生日や季節ごとの行事食も提供し、利用者の状態に合わせた食事形態で、食が進むよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量や食事形態で提供し、必要な摂取量やカロリー、水分摂取量の確保に努めている。月1回体重測定を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床と就寝時に、歯磨きや義歯洗浄の声かけや見守り、実施支援等を行い、口腔内の清潔保持に努めている。痛みや異常があれば歯科受診を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録をとり排泄パターンを把握して、定時のトイレ誘導だけではなく、個人に応じた誘導及び支援を実施している。	見守りが基本であり、利用者の排泄パターンを把握し、利用者に合わせた頻度や方法で声掛け・誘導して、トイレでの排泄を支援している。日々の状態の変化を職員間で情報共有し、適切な支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を行っている。自然排便が無い場合は、頓服の下剤などが必要に応じて使用する時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後の限られた時間帯ではあるが、その中でも個々の希望や体調に合わせて入浴できる様に支援している。	週2~3回の入浴機会があり、利用者の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援している。ほぼ全員が浴槽に浸かり、職員との1対1の会話を楽しみながら、寛いだ時間が過ごせるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の状況に応じ、いつでも休息ができるように、常に環境整備はしてある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にお薬ケースを作成してある。薬剤と処方箋のコピーと服薬チェック表とを一緒に保管、管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、散歩、工作、パズルや塗り絵、読書、お喋りなど、一人ひとりの嗜好を把握して、個々が興味や関心のある活動を行えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、敷地内の散歩しか行えていない。また、ご家族様との外出も、病院受診のみと限定されてしまっている。	外出機会の現状は、家族同伴での通院受診のみであり、敷地内での散歩やベランダで外気に触れて気分転換をする程度である。今後は、散歩を日課に戻したり、感染症の状況も見て外出レクを再開するなど、外出機会を増やす意向を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理で、小口現金として預かっており、必要に応じて、日用品や消耗品などの購入に使用している。残金が少なくなれば、ご家族様に入金を依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りができるようになっている。ご家族様には、電話が繋がりがやすい時間帯を伺っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせた貼り絵や壁飾りを利用者様と作成して、共有スペースに展示している。	平屋建てであり、利用者がユニット間を歩き来できるようにしている。作品や飾り物で季節感を演出し、リビングの掃出し窓を開けることで季節の空気感を感じることができる。多くの利用者は日中、リビングで「自分なり」の時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、個々の椅子だけではなく、各所にソファを配置し、各自が自由に過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、今まで自宅で使用していた馴染みの家具や日用品を持参して頂いている。	入居時には、生活環境が変わらないように馴染みの家具や日用品、身の回りの写真や書籍、テレビなどを持ち込んでいる。利用者が「自分の部屋」として居心地よく、安全に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、トイレや浴室、廊下に手すりが設置してある。各所には分かりやすいように表札や張り紙がしてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人 瑞穂会		
事業所名	グループホームかみさの家 萌ユニット		
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町字大官43番地		
自己評価作成日	令和5年8月22日	評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2372101390-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響で、行事や活動のほとんどが中止となっています。感染症拡大以前は、敷地内の畑や花壇を利用し、四季折々の野菜や花々を栽培し、利用者様と一緒に収穫を楽しめるようにしています。年2回は、近隣の保育園児を招待して、芋掘りと交流会を開催していました。また、散歩や外気浴など、利用者様が気兼ねなく室外へ行けるよう開放的な環境の維持に努めています。基本理念を忘れず、個々の生活スタイルやペースを尊重し、個々に合った支援ができるように努めています。運営推進委員会や家族会を通して、より良い施設づくりの為に意見やアドバイスを頂く場を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は日々の業務を遂行する際、自分自身の目標を決め、施設の理念の実践を心掛け業務を行っている。しかし、施設の理念を理解できていない職員もいる為、理念を共有する機会を設けなければならない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の為、ふれあいサロン、近隣の保育園との交流ができておらず、地域との繋がりが持てていない。 運営推進会議は、2ヶ月に1度、施設にて開催することができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	対面での運営推進会議が行えるようになり、運営推進会議で施設の現状や施設で行っている認知症の勉強会の内容を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度、施設で会議を行っている。対面で行えるようになり、地域の方からの助言を頂くことができ、そこで出た意見、助言を施設のサービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当との連携は取れていないが、市より派遣されている、介護相談員の訪問受け入れを再開しており、意見の交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて、身体拘束についての勉強会を開催し、職員の知識の向上に努めている。 施設の方針として、玄関の施錠はしていないが、窓からの離設を防ぐ為、目の届かない共有部分の窓に10cmロックをすることがある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、虐待についての勉強会を開催し、職員の知識の向上に努めている。 内出血や擦り傷について、何故できたのかを考える場を持ち、再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けていない為、職員の理解度は低い。今後、職員会議等で、知識を得る機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際に契約に関する説明をし、十分に納得して頂けるよう努めている。また、ご家族様の面会時や電話連絡にてご家族様とお話しし、不安や疑問点を少しでも解消できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の意見や要望は、その都度職員間で話し合いをし、共有している。また、意見や要望がないか、ご家族様の面会時や電話連絡にてご家族様とお話をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時など、日々職員とのコミュニケーションを取る機会を作り、希望や要望・意見などを聞く機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に6日のリフレッシュ休暇や、年1度の5日までの長期休暇を取れる環境を整えている。また、有給休暇をなるべく消化出来るような勤務体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの影響で、外部研修への参加が困難な状況である、内部研修や勉強会を中心に、研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ認知症対応型共同生活介護事業者の代表者が集まる、市内の会議に定期的に参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の様々な言動について、日々のコミュニケーションを通じ、どのようなことを求められているか考えている。また、これまでの生活歴を知り、利用者様との関係づくりに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの意見や要望は、ご家族様の面会時や電話連絡をして聞き取りをし、良好な関係づくりに努めている。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、家族会が開催できていない為、家族との接点は少なくなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時に利用者様とご家族様の必要としている支援を見極め、施設サービス計画書に反映させている。計画書は、利用者様の状態に合わせて、その都度変更、追加をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりが楽しく穏やかに過ごして頂けるよう心掛け、職員と一緒にできる環境作りをしている。また、同じ目線に対応し、安心して生活して頂けるよう努めている。ご本人様がすることは、ご本人様にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時や電話連絡にて、不安や困りごとの解消に努めている。また、1ヶ月に1度手紙を送付し、利用者様の現状をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大の為、今までのような面会ができていないが、ご家族様や知人との面会、電話、手紙を通じ、これまでの関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や関わり方を考慮し、席を替えたりソファで過ごして頂く等、より良い環境作りをしている。 また、利用者様が皆楽しんで頂けるようなレクリエーションの取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後は、関係が途絶えてしまっている。どのように関係性を保つのか、考えていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者様の表情や言動、訴え等、小さなことでも見落とさないよう記録に残し、また、傾聴するようにしている。また、カンファレンスで話し合い、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を、書面や利用者様本人様から聞き取り、どのような暮らしをしてきたかを知る努力をしている。それを普段の会話に取り入れ、安心感を持って頂けるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の会話や表情から、利用者様の現状を把握し、変化を察知できるよう努めている。職員間でも情報を共有している。また、1日2回のバイタル測定をし、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の現状に即した施設サービス計画書を作成する為、利用者様、ご家族様の意見を取り入れ、職員間でカンファレンスを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入することで現状の把握をし、申し送りを通して職員間で情報共有をしている。それを基に、施設サービス計画書の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が高齢化していることにより、徐々にADLが低下してきている為、職員の知識や介護技術を向上していかなければならない。施設での生活を楽しく過ごして頂けるよう、季節に合わせたゲームや行事を企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年では、ボランティアの協力を得て、月1回程度外出をしているが、現在は新型コロナウイルスの影響により実施できていない。その為、施設内で行える行事、施設外の散歩をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の看護師を中心として、ご家族様と連携を取りながら、かかりつけ医と関わりを持っている。定期的な受診、年1回の特定健診を通して、適切な医療を提供している。受診は可能な限りご家族様に依頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の暮らしの中で気付いた利用者様の変化は、施設の看護師や、併設の特養の看護師に伝え、適切な看護が受けられるよう支援している。必要であれば、ご家族様とも連携し、受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者と施設の看護師が病院関係者と連携し、情報共有をしている。医療機関との関係は薄い為、緊急時にスムーズに連携できるような関係づくりをしていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設入所時に、重度化した場合を想定した説明を行い、同意書に記入して頂いている。状態が悪くなった場合は、その都度説明、同意をして頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは作成されているが、応急手当や初期対応の訓練はできておらず、職員の知識、技術は不足している。今後、勉強会等で知識、技術を習得し、利用者様の急変時に備えておかなければならない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っているが、実践力があるとは言えない。自然災害が増えている昨今、準備しておかなければならない喫緊の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の話をしっかりと聞く意識を持ち、一人ひとりに合わせた声かけをすることにより、安心した施設生活を送って頂けるよう援助している。また、自尊心を傷つけない声かけを心掛けているが、対応が難しい場面もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中活動や軽作業を行う際、何をしたいか、どうしたいのかを尋ね、可能な限り利用者様の思いを尊重するよう努めている。自己決定が難しい利用者様に対しては、本人様の思いを尊重できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の活動に追われがちであるが、利用者様に合わせた介護を心掛け、利用者様のペースに合わせた援助をしている。職員の人数が十分でない時は、業務優先になってしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様に衣類を選んで頂いたり、起床時に整髪をして頂く等、利用者様に整容を意識して頂けるよう援助している。また、月1回理容奉仕があり、希望を聞き、カットやカラーをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	適宜利用者様に聞き取りを行い、食べたいものが無いかを尋ねている。食事の準備は、危険が無いように配慮し、簡単な作業をお願いすることがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日ケース記録に記入し、月に1度体重測定を行い、体調管理をしている。食事形態も、利用者様一人ひとりに合わせたり、スプーンやフォークを使用する等、工夫をしている。栄養バランスの管理はできていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後は行っていないが、起床時、就寝時に口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持をしている。痛み等、異常がある場合は、歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握する為、ケース記録に記入をし、排泄時間やパットの大きさ等、職員間で話し合いをし、変更している。尿意、便意の無い利用者様は、適宜声かけをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量、運動量、内服薬の副作用等、様々な要因を考え、施設の看護師を中心として排便コントロールをしている。 野菜中心の食事内容や、水分がしっかりと摂取できるよう援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴をして頂いている。声かけをし無理強いはいしないが、入浴拒否が続いている場合は、その旨を説明し、入浴して頂けるよう援助している。また、利用者様の健康状態に合わせて、入浴の可否を判断している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が強い時や体調不良の時は、適宜ソファや居室にて休息する時間を設けている。夜間帯も、室温や照明等、良眠できるよう環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服薬について、職員全員が理解していない為、勉強会等を通して、内服薬の種類、副作用を理解していく必要がある。 内服薬の準備は看護師が行い、変更がある場合は申し送りをし、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある活動を行って頂けるよう、利用者様一人ひとりの嗜好を把握し、体操、合唱、紙芝居、散歩等のレクを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年では、月に1回程度外出レクを実施しているが、新型コロナウイルスの影響で行えていない。その為、苑外を散歩したり、ゴミ捨てを一緒に行う等、施設の外の空気に触れることができるよう援助している。 受診のみ、ご家族様に対応して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している利用者様はおらず、事務所で預かりをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはご家族様に電話をしたり、手紙を書かれる利用者様も見えるが、頻度はかなり少ない状態である。毎年、年始に年賀状を作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内の壁には、季節感を感じて頂けるような飾り付けをしている。飾り付けは職員と利用者様が協力して作成している。また、エアコン、床暖房を使用し、快適に生活して頂けるよう援助している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様を近くに作る等の配慮をしているが、トラブルに発展することがある為、適宜席替えをしている。食事場所は決められているが、それ以外の時間帯は、フロアのソファース座ったり、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で安心して過ごして頂けるよう、ご家族様の協力を得て、写真や家具を配置している。危険なものについては、回収させて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分からなくなってしまう利用者様の為、扉に名前やトイレの張り紙をし、迷うことがないように援助している。また、バリアフリーとなっている為、安全に生活して頂くことができている。		